

協会第84回評議員会 人権を運動の中心に -キューバ医療視察の経験から

協会は11月17日に第84回評議員会・臨時決算総会・第36回共済制度委員会を開催。評議員ら104人が参加し、活発な議論が行われた。前半期活動のまとめと後半期活動の方針を決定し、診療報酬改定の不合理是正と大幅プラス改定の実現、70～74歳の窓口負担1割継続、消費税増税中止、TPP交渉からの撤退などを求める決議を採択した。また、特別講演では元自民党幹事長の野中広務氏が講演し、会員・市民ら250人が参加。「この国の政治と平和の危機をどうみるか」をテーマに、再び戦争ができる国に向かおうとしている現在の政治に継承を鳴らした。



情勢の問題や多彩な支部活動など、活発な議論が行われた。

神戸支部からは藤末衛評議員が発言。キューバの医療視察の経験を紹介し、日本の医療・社会保障改悪に対して憲法と人権を守ることを運動の中心に据えるよう訴えた。キューバ視察の写真とあわせて、発言要旨を紹介する。

藤末評議員の発言要旨



11月に行われたキューバの医療視察に参加した。

キューバは徹底した経済封鎖が行われているが、医療と教育については、全て無料で提供されている。徹底した予防医療が行われている。プライマリから高度医療まで全て無料だ。大学への進学率も50%を超えている。

なぜそんなことができるのか。キューバの憲法50条には「看護、医療は無料ですべての国民に提供される」とはっきりと書かれている。

日本では、経済効率に押されて人権が無視される状況がある。人権を中心に据えた運動が大事だと感じた。



ファミリードクターとともに(上)
ハバナ大聖堂にて(下)

兵庫県保険医協会 265号 2014年1月25日 神戸支部ニュース

発行 兵庫県保険医協会神戸支部
連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1801 FAX/078-393-1802

2014年 新年のご挨拶

神戸支部長・田中 孝明



兵庫県保険医協会神戸支部の皆様、新年明けまして、おめでとうございます。旧年中は協会活動に御協力頂き、誠にありがとうございました。引き続き、今年もよろしくお願いたします。

さて、今年は2年毎の診療報酬改定の年ではありますが、伝わって来る内容は実質マイナス1.26%ということでもあります。改定率だけを見れば、さほど影響はなさそうに見えますが、例年のごとく、これは数字のマジックでありまして、実際の下げ幅はこれ以上かと推測されます。改定の内容はまだ、はっきりとはしませんが、具体的には、うがい薬の単独投与の保険適用廃止や混合診療の拡大など、将来的にだんだんと広がっていく可能性を残すものとなっております。

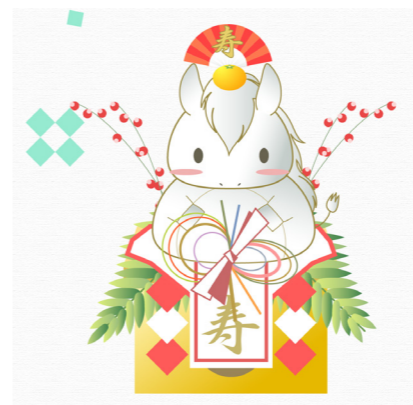
なおかつ今年消費税の引き上げも4月に控えておりますので、医療機関にとってはかなりの痛手かと思われます。

アベノミクスや6年後の東京オリンピックで高揚感に浸るのはいいんですが、現実には超高齢化社会に日本は突き進んでおります。東京オリンピックの時、65歳以上の人口割合は?また認知症の患者数は?年金問題は?誰も明確には答えられません。

政府は当初、消費税の増加分は、全て、社会保障にと言っておりましたのに、最近ではトーンダウンしてきているのは否めません。国民の将来は各々の自己責任でということなのでしょうか。

午年の今年は大草原を駆け巡る駿馬のようにと書こうと思いましたが、馬も健康で食料がないと颯爽と走れません。

今年も保険医協会はぶれずに診療報酬改定の大幅増と消費税増税の見直しを、改めて推し進めていきます。どうか会員の皆様、御協力をお願い致します。



感想文 神戸支部医科歯科連携研究会「糖尿病の合併症管理最前線」

医科歯科で共通する注意点学んだ

神戸支部は12月8日、兵庫県私学会館会議室で医科歯科連携研究会「糖尿病の合併症管理最前線」を開催した。医科では新須磨リハビリテーション病院院長で東邦大学名誉教授の芳野原先生が、歯科では高知県・のむら歯科院長の野村圭介先生がそれぞれ講演。歯科医師を中心に医師、薬剤師など多様な職種から47人が参加し学習した。参加者の感想文を紹介する。



47人が参加し質疑も活発に行われた

はじめに東邦大学名誉教授で新須磨リハビリテーション病院院長の芳野原先生のお話です。

ポイントは必ず糖尿病とその合併症がいかに怖い病気かということ、さらに近年の激増により人工透析などで医療費を押し上げているということです。

糖尿病が増えた原因ですが、現代の日本人は洋服を着た縄文人だとおっしゃいました。つまり、縄文時代は食べるものが豊富でなく、いかに低血糖を防ぐことができるかが大切であったため、グルカゴンが重要な役目を果たしてきました。現代人も本質的には体質は変わっておらず、インスリンの量や作用不足など、高血糖に慣れていないのです。

近年、食事が西欧化しカロリーオーバー、しかも運動不足が加わり糖尿病へ突っ走っています。食生活を見直して和食(一汁三菜)に立ち戻る必要があると

思います。

次に高知から来られた歯科の野村圭介先生のお話です。

歯を失う原因で一番多いのが歯周病です。歯周病は糖尿病と共に生活習慣病であり、相互に悪影響を及ぼします。

歯周病の予防治療はプラークコントロールにつきます。歯間ブラシが特に重要で、毎日の習慣にしなければだめだということです。

お二人の講演で共通するのは、よく咀嚼



芳野先生が歯科とも連携した合併症管理の重要性を解説した

(2面から続く)-----



野村先生が糖尿病患者への歯科治療で注意すべき点などを解説した

嚼めることが大切であるということです。歯科側から咀嚼のメリットとして、口腔内洗浄作用のある唾液の分泌、消化吸収、

あごの発達、情緒の安定等に良いということが話されました。医科側からは、咀嚼回数を増やすと脳から満腹を感じるホルモンが出て過食を避け肥満の防止につながると話されました。我々一人ひとりが肝に銘じなければならぬと強く感じました。

【須磨区・近重 民雄】

健康と医療について語り合う会

手話通訳の大切さ感じた

神戸支部も協力する聴覚障害者の医療を考える会(いのちを考える会)が11月28日に、あすてっぷKOBEで学習会を開催。神戸大学病院整形外科の前野耕一郎先生が「本当にこわい首の病気～症状から治療まで～」をテーマに講演し、21人が参加した。感想文を紹介する。

9月16日に兵庫県聴覚障害者文化祭に初めて行った時、プログラム印刷物の中に「ケーワンでお悩みの方、ご相談下さい」という案内があり、「ケーワンて何？」と疑問に思っていました。後日、頰椎の病気のことと痛み、しびれのことと教えていただきましたが、この度のいのちを考える会に出席して分かりやすく、丁寧に教えていただき、感謝しています。

もし具合が悪くなった時、まずどこに受診に行けば良いかを学び、そして、年齢的に急な動きに気をつけるよう心がけたいと思いました。

「いのちを考える会」への参加は2回目ですが、盲ろうの方、ろうの方が熱心



神戸大学病院の前野先生が図を示しながらわかりやすく講演

に学んでいらっしゃる姿に、また熱心に質問なさっておられる姿に手話通訳、触手通訳の大切さを深く感じています。

このいのちを考える会が、これからも続きますように。講師の先生方をはじめ、企画、準備をしてくださっている担当の皆さまの尊いお働き、ご奉仕が豊かに実りますように。健康が支えられますように。出席なさいますお一人お一人の健康が支えられ、平安でありますように。

私は、手話入門講座修了後、葦の会に入会させていただきました。覚えが悪く時間がかかりますが、続けて学んでいきたいと願っています。

【参加者・伊藤 洋子】